

1. 学校の教育目標

- ・ファッション産業の発展に伴い、社会のニーズに必要な人材を育成するために「服飾・ファッション業界を目指す人には、豊かな学習環境と教育の質の向上を目指す」を目標としてきた。
- ・創立76年の「建学の精神」「教育目的」のもと学生達の夢と希望を叶えられるよう、企業と学校が連携し、実践的な教育を実施し、時代が要請する高度な専門性を持った即戦力となる人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・創立76年を迎えて「伝統と革新」を目標に時代の変革を「職業実践教育課程」の申請に向けて伝統と改革を掲げ、創立80年に向け、維新していく学校として更なる構築を図る。
- ・服飾・ファッション教育の伝統校としての学科教育内容、企業と連携した各科目における実践的な教育の実施、企業実習、演習、企業の講師による講義など業界で即戦力となるレベルまで育成する。
- ・ファッション業界に必要とされる基礎的な知識、技術、感性は、もちろんのこと、カリキュラム、企画、生産、販売へと流通業界にも通じるファッションビジネスにも力を入れ、専門的、創造的な職業人と人間教育の場として取り組んでいる。地域の産業振興に寄与する。また、将来有望な社会人を育成する。
- ・各ファッションコンテストに学生を挑戦させる。
- ・検定の合格率を向上させる。
- ・就職率を向上させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
1	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3	2	1
2	・学校における職業教育の特色は何か	3	2	1
3	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	2	1
4	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	2	1
5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	2	1

① 課題（評価年度における課題）

- ・職業教育の現場を増やし、学生個人に相応しい産業との関わり、インターシップ市場に向けた情報発信など時代性を先取りするための授業を行うべきである。
- ・学生、保護者への周知が弱い。学校、各学科の教育目標をしっかりと伝えることでカリキュラムの内容への理解も深まると思われる。
- ・専門知識・技術・感性の育成、人間性・協調性・社会性の育成、地域社会への貢献ができる人材の育成が必要である。

② 今後の改善方策（次年度以降の取組）

- ・各担任が朝礼などで教育理念や目標を伝えているが、文章としての掲示がないため、学生達の記憶には、残りにくくなっていると感じる。保護者に向けての文章や学内への掲示などの改善があればいいと思う。
- ・産業界のニーズを踏まえた人材育成のための授業を取り入れる。
- ・これまで以上に企業との連携に取り組み、学生たちの教育効果を上げたいが、札幌にはアパレル企業が少ないので、地域に密着した企業に連携を受け入れてもらえるよう努力するべきである。
- ・授業内容を楽しみながら基礎学習を学べる講義資料をつくとよいのではないかな。
- ・あいさつや普段のコミュニケーションの取り方をもっと行うべきである。

③ 特記事項（自校の特色となるような取組）

- ・地域のイベントなどに参加し、業界の方とも接する機会が多くなっている。
- ・北海道や世界で活躍している方々との交流や企画などを手掛けることを実践している。
- ・アグリファッション（農作業着）のデザインや中学生、高校生を対象としたファッション画コンクールなどを行っている。
- ・アグリファッションの取り組みにより企業との連携、企画、デザイン、生産、販売等アパレルの流れを実践できる。
- ・企業実習、演習、企業の講師による講義を受けることができ、職員のほとんどが企業での就職経験があるので、強力な力となっている。

(2) 学校運営

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
6	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3	2	1
7	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3	2	1
8	・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	2	1
9	・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3	2	1
10	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3	2	1
11	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	2	1
12	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	2	1
13	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	2	1

① 課題

- ・運営方針に沿った事業計画と予算の提示がない。
- ・教務時間外での活動が多いため、一人一人の負担が多いと感じる。
- ・書面等について、重複しているものがあり、修正時にミスが起きやすいので、きちんと整理するべきだと思う。
- ・情報の管理をシステム化するなど、業務の効率化を図るべきだと思う。

② 今後の改善方策

- ・教務における組織体系を明確にして、効率よく、スムーズな運営をするべきだと思う。
- ・各書類の担当者が、使用目的や必要内容を確認し、PCソフトの統一や入力時のマニュアルの整備を行う必要がある。
- ・運営方針は明確であるが、情報公開は適切ではないので、職員に分かりやすい方法で周知する必要がある。
- ・業務内容、役割分担の整理・見直しが必要である。
- ・学校全体での情報の共有化をする必要がある。

③ 特記事項

- ・適切に運営させていると思う。
- ・学生とより近い距離で学ぶことができる。
- ・明るく前向きな職場なので、何事も何とかしようとする雰囲気がいい。

(3) 教育活動

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
14	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	2	1
15	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	2	1
16	・学科等のカリキュラムは、体系的に編成されているか	3	2	1
17	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	2	1
18	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	2	1
19	・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	2	1
20	・授業評価の実施・評価体制はあるか	3	2	1
21	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	2	1
22	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3	2	1
23	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	2	1
24	・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	2	1
25	・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	2	1
26	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	2	1
27	・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	2	1

① 課題

- ・教員の能力開発、知識、技能等の修得に関して学校側の協力、理解が不十分である。各個人が学びたいと考える研修の受講希望を出しても叶えられないことがある。
- ・職員の能力開発のために更なる勉強や資格の取得が求められるが、時間やそれにかかる負担が大きい。
- ・教育課程や学習内容については、企業からも良い評価を受けているが、より工夫した内容で取り組むことが必要である。
- ・キャリア教育、実践的な職業教育を行い、学生のレベルの向上を図る。

② 今後の改善方策

- ・学校側から提案のあった研修のみならず、個人の希望する研修等にも積極的に参加させるべきだと考える。教員のやる気がおきてくる。また、言いやすい学校側の対応が必要だと思う。
- ・職員の資質向上について、より専門性を追求した研修等への参加を検討して欲しい。キャリア教育は、より専門的な分野であるため、外部の専門家に依頼するなどの体制も必要となる。
- ・専門講師だけでなく、卒業生からも現状を聞き取り、カリキュラム編成に活かしてほしい。
- ・職員一人一人の意識を向上させる。研究心の向上と企業との連携を深める。

③ 特記事項

- ・ファッションの現場で働いていた教員からの指導により、現実的かつ実用的な学びができる。
- ・職業実践教育にむけて、職員の能力開発のための研修、学生を指導するにあたっての教員の研修など積極的に行っている。
- ・人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を採用しているので、その力を発揮させる。
- ・企業との関係性が少ない1年次から、連携する企業への訪問や演習を行っている。

(4) 学修成果

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
28	・就職率の向上が図られているか	3	2	1
29	・資格取得率の向上が図られているか	3	2	1
30	・退学率の低減が図られているか	3	2	1
31	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	2	1
32	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3	2	1

① 課題

- ・資格取得率と取得数の充実や就職率を上げるためには具体的な取り組みが必要である。
- ・卒業生の就職等のバックアップ、学生の退学率を低減させる必要がある。
- ・模擬面接やマナー講習等を実施し、就職への意識を高めさせる。

② 今後の改善方策

- ・卒業生の就職先の把握や社会的活躍や評価の把握に努める。
- ・卒業後、一定の期間を決め、学校から卒業生にむけ、郵便等により連絡をとり、状況を把握できたらよい。
- ・各学生の希望職種に対して、必要な準備や手順を説明し、OBを紹介することにより、学生の就職に対する不安を取り除くことで、就職活動をより活発にすることができるのではないか。
- ・将来を見据えた企業選択や資格取得が出来るように、学生の意識を変えていくことが必要ではないか。
- ・奨学金制度や教育ローン等の活用方法を親へ周知する。

③ 特記事項

- ・卒業生の就職後の活躍を学生に伝え、就職への意識の向上を図っている。
- ・卒業生のほとんどが、いずれかの職員と連絡がとれるような状況にある。
- ・道内だけでなく道外で活躍している卒業生が沢山いる。
- ・有名デザイナーによる講演を聞くことができる。

(5) 学生支援

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
33	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	2	1
34	・学生相談に関する体制は整備されているか	3	2	1
35	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	2	1
36	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	2	1
37	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	2	1
38	・学生の生活環境への支援は行われているか	3	2	1
39	・保護者と適切に連携しているか	3	2	1
40	・卒業生への支援体制はあるか	3	2	1
41	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	2	1
42	・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	2	1

① 課題

- ・学生の生活環境、学習環境を把握し、保護者にも適切な対応をとること。
- ・進路、就職に関して支援体制は整備されていると思うが、まだまだ改善の余地がある。
- ・担任以外にも、話を聞いてもらえることが出来たらよいのではないか。
- ・進路・就職・相談に関して、全てを担当に任せているが、担任ゆえに相談しにくさを感じている学生が多いと思う。専任の担当が必要だと思うが、現状ではきびしい状況にある。

② 今後の改善方策

- ・在校生がOBと話し、希望職種への理解を深めるため、卒業生同士を結び、また仕事の広がり機会を作るために、卒業生との連絡の機会を多く作る。SNS、同窓会を活用する。
- ・教員や職員だけでは無理なところは、企業との協力体制を作り、学生にとって効果的な教育をしていきたい。
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境にするべく、広く情報をキャッチし、敏速に企画を立案していきたい。

③ 特記事項

- ・同窓会の東京支部では5年ごとに、関東圏に住む卒業生を対象に同窓会を開催している。
- ・就職率は上昇しているが、企業研修やインターンシップの体制は、さらに整備していきたい。
- ・就職率はよくなってきたが、学生が就職して、離職しないよう仕事に対しての意識を持たせたい。高校との連携を図り、講師として派遣しているが、まだ少ない状況にある。

(6) 教育環境

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
43	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	2	1
44	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	2	1
45	・防災に対する体制は整備されているか	3	2	1

① 課題

- ・校舎の老朽化や環境への変化に対応できていない。（夏の暑さへの対策）
- ・各階に設置されている火災用ハシゴの訓練を実際に行ったことがないため、いざというときに上階ほど不安がある。
- ・女性用トイレに消音装置等がない。

② 今後の改善方策

- ・学生達がより学習に集中できる環境にするためにも、冷房機器の導入が望ましい。
- ・PC（ソフトも含む）のバージョンが古いので、整備して欲しい。
- ・学生がミシンを1台ずつ使用できるようになれば、用具への責任が生まれ、物を大切にするようになると思う。

③ 特記事項

- ・それぞれに専用の教室（染色室、テキスタイル室）が設けられている（他校にはない。）
- ・実習施設は、テキスタイル、染色、コンピュータなど機材の充実とともに、プロの方に講師として指導してもらっている。
- ・海外研修では、九州の学校と合同で実施し、学校間の交流を図っている。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
46	・ 学生募集活動は、適正に行われているか	3	2	1
47	・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	2	1
48	・ 学納金は妥当なものとなっているか	3	2	1

① 課題

- ・ 広報活動に新たな試みがなされていなかったため、学生の確保が難しくなっている。
- ・ 学生の募集活動への予算が限られているので、できることが限られている。
- ・ 学校見学会、進路相談会への参加数を増やすための告知方法（高校生が見つけやすい場所）を工夫するべきである。

② 今後の改善方策

- ・ 高校生の情報交換ツールの変化に合わせていくためのリサーチが必要である。スマートフォンが出てから、家のパソコンをあまり使わなくなっているため、スマートフォンに対応した広報活動やアプリの使用を考えてはどうか。
- ・ 他の服飾分野の専門学校との連携を強化し、服飾分野の仕事への理解を深める教育を行う。保護者のファッション分野への理解を深める。
- ・ 本校はAO入試や体験入学の際の旅費等の支援はないが、他校は学費の割引等をしている。経費をあまりかけずに、学校の良さを広めていきたい。

③ 特記事項

- ・ 特待生制度やAO入試などをしていないことで、学生達がより平等に学ぶことができる。
- ・ 学外行事等でファッションショーがあり、デザイン力、技術力をより多くの人達に見てもらい、学生のレベルを評価してもらっている。

(8) 財務

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
49	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	2	1
50	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	2	1
51	・財務について会計監査が適正に行われているか	3	2	1
52	・財務情報公開の体制整備はできているか	3	2	1

① 課題

・経営も含めて財務等については、職員への提示はほとんどない。

・情報公開の体制を整備してほしい。

・校舎の新築や改築に向けての準備が必要である。

② 今後の改善方策

・職員に対して年度毎の事業報告の機会を設けてほしい。

・学生を増やすためにも、学生募集内容をより充実したものにしていかなくてはならない。地方からの学生を増やすための支援体制をつくる。

・適切な情報公開の体制を整えてほしい。

・学生数の確保が重要であり、これからも教育活動、学科編成、教育成果をより多くの人に知ってもらう必要がある。

③ 特記事項

・財務基盤は安定している。会計監査も適正に行われている。

・経営者の前向きな発言により安心して業務を行うことができる。

(9) 法令等の遵守

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
53	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	2	1
54	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	2	1
55	・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	2	1
56	・自己評価結果を公開しているか	3	2	1

① 課題

- ・職業実践専門課程の申請に伴い、自己評価を実施し、問題点を改善する取り組みが必要である。
- ・情報管理に、アナログな部分が多い。
- ・個人情報に関しては、書面やPCデータ共に管理方法が決められているが、新規項目の追加やPCデータの入力方法について統一ができていない部分がある。
- ・個人情報が漏えいしないようセキュリティの強化が必要である。

② 今後の改善方策

- ・非常勤講師にも自己評価をしてもらい、結果を公開することにより、よりよい学校運営を目指す必要がある。
- ・管理マニュアルの整備、新規項目については、その都度、全員に周知するべきである。
- ・PCなどのセキュリティを強化する必要がある。

③ 特記事項

- ・評価結果を集計し、次年度の目標に役立たせる。
- ・職員同士が連携しあい、問題点の改善を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	優れている・・・3、適切・・・2 改善が必要・・・1		
57	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	2	1
58	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	2	1
59	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3	2	1

① 課題

- ・これまでも地域イベントでの募金活動やライラック祭りへの参加などボランティア活動を行っているが、さらなる地域に密着した活動をしてはどうか。
- ・公開講座を行っているが、人の集まりがあまりよくないため、広報活動を工夫してはどうか。

② 今後の改善方策

- ・公開講座やセミナーの取り組みは良いが、案内などをより多くの人に知ってもらえるように広報活動の工夫が必要である。交通の面などの配慮も必要である。
- ・社会貢献では、卒業生、社会人、一般の方に学校の教育を生かした活動をしていきたい。
- ・社会人や卒業生のための講座の充実や内容の改善、また、高・中学生向けの講座の開設をしてはどうか。
- ・卒業生のみならず、一般の方々などにも、もっと宣伝し、社会貢献・地域貢献していくべきではないか。
- ・平成27年4月からBUNKAアシストカレッジを開設している。

③ 特記事項

- ・学生は、団体行事のファッションショーにボランティアスタッフとして参加している。
- ・様々な講座（テキスタイルや洋裁）を通して、一般の方々や卒業生などに、より良い学びをサポートしている。
- ・学生は、緑の羽根募金やファッションイベントスタッフなどに参加している。
- ・学校はテキスタイルなどの設備を使用した講座を実施して、中学生からの体験学習を受け入れている。
- ・産学連携プロジェクトを実施している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・コンテストに参加するための費用を学校がサポートしていることにより、コンテストに参加する学生が増え、また結果も出てきていると思う。
- ・検定への対策を授業に組み込むことにより、合格率が向上している。
- ・就職セミナー等を開催することで学生の就職に対する意識も変化し、実際に行動することで、就職率も向上している。
- ・学生一人一人が在学、卒業した学校にさらに誇りを持てるようにするためにも、学生達とよりコミュニケーションをとり、資格の修得や就職率の向上へと結びつけていく必要がある。
- ・入学者数を増やすために、遠方からの体験入学者へのサポートを行い、きっかけづくりと良い印象づくりのために内容をさらに充実したものにしていかなければならない。
- ・企業との連携も以前から行っていたが、より一層の強化が必要であり、学生だけでなく、教員と企業との連携も強化しなければならないと思う。学生を時代に合った次世代の職業人に育てるべく、教員の意識改革も必要である。
- ・多種多様な業種がファッション産業にはあるので、カリキュラムの段階から北海道や地域にあった人材の育成が必要である。
- ・本校の学生は技術面での高い評価もうけているので、さらに新しく今の時代のニーズにあった服づくりができるようなカリキュラムに進化させていきたい。
- ・高齢化社会になった現在、おとなのための講座も始め、地域の方々と共に必要とされる学校をつくり上げていきたい。
- ・札幌市に服飾系の企業が少ないこともあるが、もっと企業との連携は図り、企業研修を授業に導入するとよいのではないかな。
- ・高度な知識を持った学生を育てるだけでなく、感性をのばす、自由な発想を促す授業も必要である。
- ・学生があきらめず、また、あきずに継続できるよう個人にあった指導法を考える必要がある。
- ・担任だけでなく、相談できる人や場所が必要である。